明治安田

関西元気百景

第1章　名所旧跡

千有余年にわたり日本の中心地として栄えた関西には、ユネスコ世界文化遺産に登録された場所をはじめ、古くからパワースポットとして人々に愛される名所旧跡が数多く存在しています。名所旧跡は、その土地の歴史・文化を伝える役割を果たすとともに、観光地としても大変人気があり、多くの人々が訪れることによって地域の活性化にも繋がっています。

延暦寺大黒堂

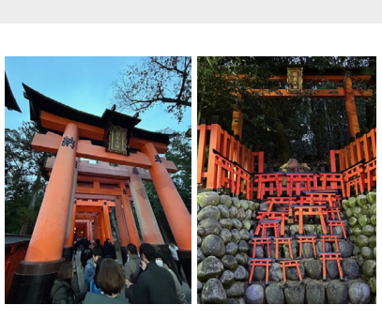
京都の鬼門を守るとされる比叡山延暦寺。日本仏教の母山とも称され、鎌倉新仏教の開祖など、多くの宗教者を生んでいる。最近、毎年とは言わないが、結構頻繁に通っている。狙っているわけではないが冬が多い。名神高速道路から分岐して山を登り、ドライブウェイを経由して東塔に向かう。今年訪れたときは比較的暖かく、道に雪はほとんどなかったが、年によっては車では登れないほど積もっていることもある。山上ではまず大講堂、そしてまだ修理中の根本中堂を訪れる。

そして必ず訪れるのが大黒堂である。最澄が彫ったという三面六臂大黒天を本尊とし、大黒天信仰の発祥の地とされる。豊臣秀吉が祈願したことから三面出世大黒天と呼ばれるようになった。お堂は延暦寺の伽藍からすると小ぶりともいえるが、落ち着ける空間である。

そもそも比叡山延暦寺は強力なパワースポットであるが、なかでも大黒堂は、私にとって延暦寺で得るパワーをより研ぎ澄ますことができる場である。今回訪れた際は写経を行なうこともできた。静謐な空間は日常の喧噪から離れ、ゆっくり自分を見つめ直すことができる。次のスタートへの静かな力をもらえる場である。

（古野 貢　武庫川女子大学教授）

伏見稲荷大社



多くの方はあの千本鳥居、朱（あけ）の鳥居が立ち並ぶ風景を思い浮かべるのではないでしょうか。でもここの元気のもとは、千本鳥居を通り抜けた三ヶ峰（みつがみね）と呼ぶ山に林立する「お塚」にあります。一万近くあるかと思われますが、そのすべてが神さまなのです。「福寿（ふくじゅ）大神」「金成（かねなる）大神」「火防（ひぶせ）大神」、ひと目見てなにが祈願されているかすぐ分かります。それぞれの人々の暮らしに根差した祈りと願い、それを籠めて造られたごく素朴で、しかし暮らしのなかの信仰がここに息づいています。清少納言が初午（はつうま）に参詣したころの「お塚」は今のような数ではなかったですが、農業神から始まった稲荷への信仰は、農業とつながりを持たない彼女のような貴族たちにも受け入れられていたのです。伏見稲荷大社には、そうした長い時代にわたって重なりあったさまざまな祈りと願いが詰まっているのでして、日本人の暮らしの多様性を知り、また自らも祈りと願いをささげるためにも、ぜひ訪ねてみたい場所です。

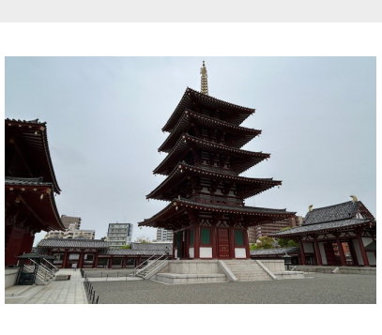
（井上 満郎　京都市歴史資料館館長、京都産業大学名誉教授、京都市埋蔵文化財研究所長）

大阪城

かつては環状線で京橋を過ぎると、大阪城がそれなりにながめられたものだ。だが、いつのまにか、高層ビルが林立して、よほど注意を凝らしていても、一瞬チラと姿を通り過ぎるだけになってしまったことを残念に感じていた。ところが機会があって、淀川から分岐して市内をながれる大川を、アクアライナーという船で遊覧することになった。大阪城公園駅のすぐ下から乗船して、八軒家浜の船着き場を通過し、中之島公園の下をめぐり、淀屋橋でリターンするというコース。その途中、ビル群の合間から大阪城を目にすることができる。水面すれすれの高さから城を見上げることになる。江戸時代、京都から船で大阪に着いた人びとは、こういう位置から大阪城を眺めたのかと思い至った。

（藤田 真一　関西大学名誉教授）

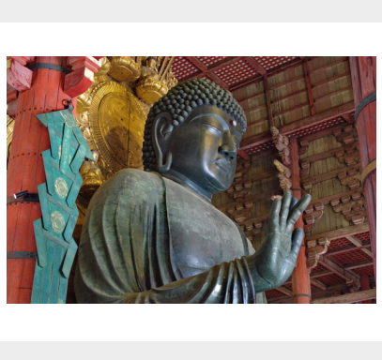
四天王寺



天満橋に行くことがよくある。時間が許せば、帰途は谷町筋か上町筋、あるいは熊野街道を、アベノまで歩くことにしている。健康のためでもあるが、道中に四天王寺が建っているからである。境内に心洗われ、特に経木流しの亀井堂に手をあわせ、隣りあう水掛不動尊に願をかける。幼少の頃より、春秋の彼岸、家族そろっていくお詣りが唯一といっていいほど、わがやのしきたりであった。本年、聖徳太子が創建して 1450 年になる。「天王寺さん」を歩くことが、私にとって、心のやすらぎと勇気を与えてくれる場所である。

（西田 孝司　松原市文化財保護審議会会長）

東大寺



東大寺二月堂から沈みゆく夕日を見た後、奈良駅の方に。東大寺南大門までゆっくり降りて来るともうあたりは静かな闇に包まれ、門の大きな提灯に明かりがふわっと灯ります。幽玄とはもしかしたらこのようなものかもと思う時、関西にご縁をいただいた幸せを同時に感じます。

（西郷 由美子　美術愛好家）

熊野本宮大社・大斎原(おおゆのはら)

正面の大鳥居は高さ 33.9m、2000（平成 12）年の建立で日本一の高さを誇っている。和歌山県屈指のパワースポットとして近年訪れる人が増えている。1889（明治 22）年の十津川大水害で中州にあった熊野本宮大社の社殿が流され、現在の熊野本宮大社に遷座された。本宮跡地は現在整備されて桜の季節が美しい。晩秋には八咫（やた）の火祭りで賑わう。神武東征の神使（案内役）の八咫烏（やたがらす）は熊野のシンボルとされ、日本サッカー協会のシンボルマークとしても知られる。ワールドカップ前の熊野三山必勝祈願は有名な行事。令和のディスカバージャパンを楽しんでみては？

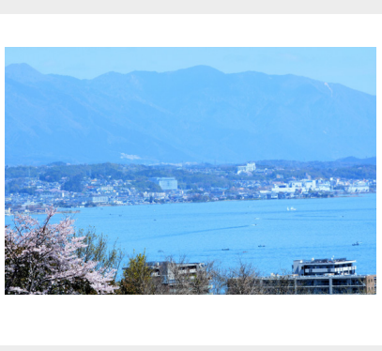
（中原 文雄　建築工房日想舎舎主）

名所旧跡はほかに、白鬚神社、上賀茂神社、住吉大社、春日大社などをご紹介しています。

第2章　自然・風景

関西には、豊かな自然が織りなす風光明媚な場所はもとより、古の趣を残す街並みや都会の風景など、有名スポットから穴場的スポットに至るまで数多く存在します。

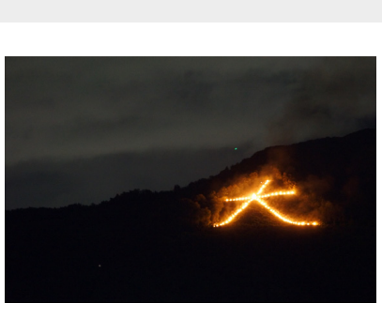
琵琶湖（北湖）「見飽きない広い湖水と空」



琵琶湖大橋より北の琵琶湖を北湖といいますが、北湖は深さも深くなるし、従って波も南湖より些か大きくなり、少し荒々しくなってはきますが、北湖の上空は、空を遮るものがなく悠々とした気分になります。湖水と空が創る遥かな風景（何もない風景）は見飽きません。何時間でも向き合っていられます。快晴の日はもちろんのことながら、雲が分厚くても湖水と空を見ているのは楽しいです。

（西本 梛枝　旅行作家）

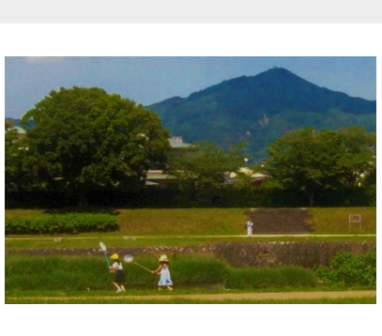
大文字山の火床



大文字の送り火と言えば、有名な京都の夏の風物詩ですが、実際にその火をつける火床に行ったことはあるでしょうか。銀閣で知られる慈照寺の入り口からほど近いところに、送り火の火床へと続く登り口があります。登り切って火床に着くと、急に視界がひらけ、京都の街を一望できる絶景が広がります。この景色を見ると「あぁ、京都だな」という思いとともに何だか元気づけられるのです。さらに、火床は標高３００メートルほどで、ファミリーでも上れるようなハイキングコースになっていますから、通い詰めれば心身共に健康になること間違いありません。

（増田 朋記　弁護士）

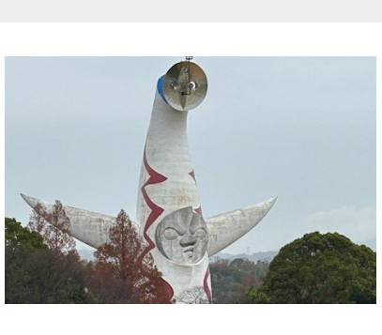
鴨川



北山の職場からの帰途よく北山大橋を越えて鴨川右岸の河原を南へと下る。対岸の京都府立植物園を過ぎたところにこの景色が現われてくる。鴨川の緑のオープンスペース越しの神々しき霊峰比叡の姿、夏の盛りといえどこれには元気がでる。市中から見る比叡の山映にいつも注目しているが、ここから見る景色はひとしお愛おしい。この後出雲路橋を越え北大路大橋で土手に上がり北大路駅を目指すのが帰り道の鴨川散歩ルートとなっている。

（中原 文雄　建築工房日想舎舎主）

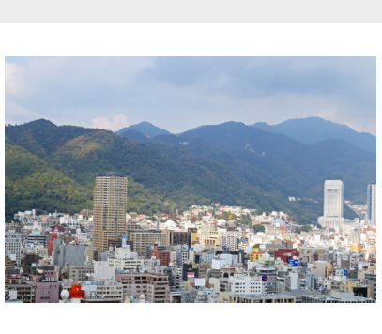
万博記念公園の森（ソラード）



長年、木々の緑に包まれて過ごしてきたためか、今の居住界隈に緑が少ないことを残念に感じていた。しかし、わざわざ緑を求めて山間部へ足を運ばずとも、辺り一面に樹木が青々と茂る場所が近場にあることを知った。万博記念公園のソラード（森の空中観察路）だ。1970（昭和 45）年に開催された万博会場跡地に造成されたこの森は深く茂り、清涼感を感じる空間に鳥や虫の声が響く。観察路は樹木より高い位置に設けられている箇所もあり、樹木を見上げたり見下ろしたりと空間を縫うように散策しながら森林浴を楽しめるのが心地よい。終着地点にある展望タワーに登ると、眼下に広がる広大な森に改めて感動する。樹木が人に与える力は偉大だ。目を閉じて澄んだ空気を深く吸い込めば、私の身体の全細胞がシャキッと目覚めて動き出し、生まれ変わったような爽快な感覚が全身に漲ってくる。

（大安 佐智　文筆家）

六甲山の磐座



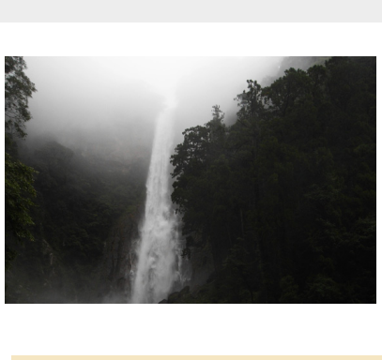
磐座（いわくら、神が宿る岩あるいは神を迎える岩）にロマンとスピリチュアルな魅力を感じる人が少なからずいるようだ。私も（超初心者ながら）その一人で、数年前、斯道の先達に導かれ磐座めぐりを体験したことがある。

関西圏には磐船神社（大阪府）、神倉神社（和歌山県）、三輪山（奈良県）、花の窟神社（三重県）といった高名なスポットがある。そのなかで、先達が選んだのは、越木岩神社（兵庫県西宮市）から甲山森林公園を経て六甲山登山のコース。

ご神体の甑岩（こしきいわ）に感銘を受けたが、山中の名もなき巨岩（その筋の探究者には知られた霊石だったかもしれない）の直下、先ほどまで磨崖仏（まがいぶつ）が鎮座していたと思しき岩棚の所在を教えられ、勧められるまま座禅を組み、日を浴び、しばし黙考したことがあった。顔付が変わったと同行者に冷やかされたが、気分は間違いなく刷新されていた。

（中塚 則男　ワールドマスターズゲームズ２０２１関西　組織委員会事務局長）

那智の滝　墨絵の雄姿



那智の滝は季節、時刻、気象、温度により刻々と姿を変える。秋の夕刻、熊野三山めぐりの帰り、偶然色のない世界に迷い込んだ。落ち口を隠す靄、滝壺からあふれ出る奔流の白と黒石の対比。一幅の墨絵のような雄姿を前にして思わず首をたれ合掌。瀑音は鼓膜のみならず足元から五臓六腑を震わせ、その場を立ち去りがたい感激に私は包まれていた。

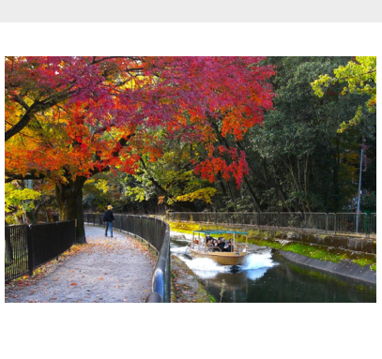
（中原 文雄　建築工房日想舎舎主）

自然・風景はほかに、竹生島、伊吹山、愛宕山、哲学の道、大阪港、洞川、山の辺の道、潮岬などをご紹介しています。

第３章　建築・建造物

関西には、趣深い歴史的建築・建造物はもとより、比較的新しくても思わず写真に撮りたくなるような建築・建造物も数多く存在しています。「名建築」と呼ぶにふさわしい芸術的な建物の内外で過ごす時間は特別感を得られ、訪れる人々に元気を与えてくれます。

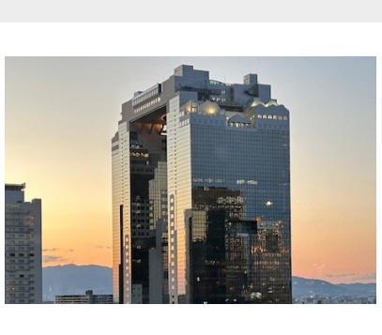
びわ湖疎水船　秋シーズン



日本遺産に認定されている琵琶湖疎水を船で楽しむ「びわ湖疏水船」は本格運行の開始から今年で７年目となる。写真は京都蹴上から大津方面へ向かう「めいじ号」を山科エリアで撮ったもの。さかのぼる船のエンジン音と乗客の歓声が「元気のかたまりの如く」秋の静寂を切り裂いて通り過ぎて行った。私は夕陽の紅葉を楽しみながら蹴上方面へと歩をすすめた。この疎水船では春の桜のトンネルもお勧めコースです。

（中原 文雄　建築工房日想舎舎主）

大阪梅田スカイビル



「空中庭園展望台」（1993（平成 5）年、大阪梅田スカイビル）は、1995（平成 7）年の阪神・淡路大震災の記憶を呼び起こすと同時に復興への希望のシンボルでした。被災地から大阪のオフィスへ通勤するために淀川を渡る車中には、ぽっかり浮かんだ雲のあいだから巨大な水槽のなかに輝くアーチが見える。超高層ビルの頂部を二つ繋いだポエティカルな建築。高さ 170 メートル、空中展望台面積 54 メートル ×54 メートル、吹き抜け高さ 150 メートル。設計者・原広司によれば、阪神・淡路大震災のときも、構造本体に影響はなかったようです。建設翌年の風の強い週末、友人と秋空の遊歩にでかけました。歩きだせば遠ざかり、遠ざかれば近づき、なかなか展望台の下にたどりつけません。「空に浮かぶ島へようこそ」と、スウィフト（ガリヴァー旅行記）に登場する空中の都市ーラピュータの住人がすんでいるらしい。花々が咲き乱れている花野と思いこんでいた庭園は空っぽな空間だが、360 度の視界が広がり、海と空のあわいに輝く光の帯のなんと美しいこと。瀬戸内海、淀川をみおろして、鳥になった気分になりました。

（寺田 操　詩人・コラムニスト）

大阪市中央公会堂

大阪市中之島の中央公会堂は重要文化財。1970 年代、再開発計画により老朽化した建築物の取り壊しが発表され、日本建築学会近畿支部が中之島の危機を呼び掛けた。都市計画を目指す仲間を集めて、「新建築家技術者集団」を結成。中之島保存運動「中之島をまもる会」が生まれた。中央公会堂の内部はコンサートホールを始め、多くの部屋が一般公開されている。２ 階のホールでは社交ダンスパーティがいつも開催され、ダンスの好きな私は幾度か参加したものである。2023（令和 5）年 12 月 14 日より 25 日まで、「OSAKA 光のルネッサンス２０２３」（大阪府・市、経済団体などの実行委員会主催）により、壁面をスクリーンにして映像を投影するイベントが行なわれた。映像は幻想的で多くの人が楽しむ。

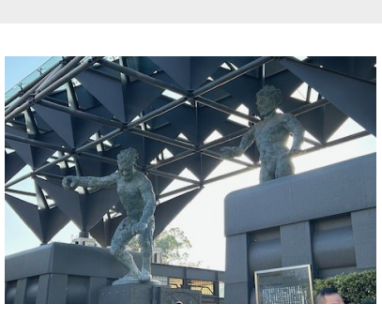
（黒田 睦子　（公社）奈良まちづくりセンター顧問）

グリコランナー広告塔（戎橋）

戎橋の観光人気スポットナンバーワン。１９３５（昭和 10）年に第一号が建ったときは、周りに高いビルはなく、目立ったと思う。牡蠣の煮汁から取ったグリコーゲンを利用した健康食品として発売されたハート形のキャラメルは、一粒３００メートルのキャッチコピーと赤い箱、当時、大阪で開催された極東オリンピックで優勝したフィリピンのカタロン選手をモデルにランナーをマークにして、小さなおもちゃの箱をつけて、一気に森永・明治を追い抜く業績を挙げた。子どもたちは、遠足に運動会にグリコキャラメルを食べて元気に走ったり、遊んだ。今では、グリコキャラメルの購買数は減っている。しかし、高齢者にとっては、なつかしい味と食べると元気をもらえるように思えて人気がある。

（樋口 須賀子　宮本順三記念館豆玩舎 ZUNZO 館長）

一心寺の山門（仁王門）

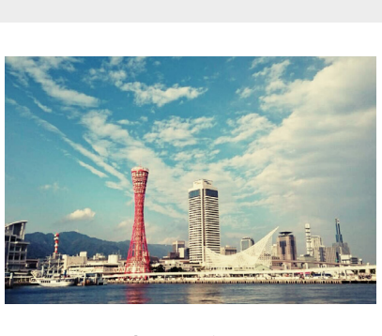


遺骨を集めて１０年ごとに仏像（骨佛＝こつぶつ）を造る寺として有名な大阪市天王寺区の一心寺（いっしんじ）。骨佛に祀られている知人供養のため、１９９７（平成 9）年に初めて寺の石段を上った。見上げると、現代アートのような黒い山門が迫り、びっくり。「えっ、これがお寺の門？」。鉄骨と特性ガラスを幾何学的に組み合わせた斬新なデザインの大屋根。左右両端には、高さ５ｍの筋骨隆々とした男性ブロンズ裸像。両手を広げて挑みかかるようなポーズ。一体は口を開け、別の一体は口を閉じ、説明板がなければ仁王像とは思いもつかない。現代彫刻だ。非暴力の知恵で悪に立ち向かう姿を表しているという。重厚な門扉には天女４人の美しく豊かな裸像がレリーフされ、猛々しいブロンズ像との対比が鮮やか。門の設計は建築家の元住職、高口恭行氏が当たった。

門の正面には落ち着いた和風の本堂、静かな墓地も広がる。「寺とは何か」。否応なく、心の中で対話、格闘が生まれ、新しいエネルギーが沸き起こってくる。初心に戻ったように胸がドキドキしてくるのを感じる。私にとって自分や人生を反省、考えさせ、また励ましてくれる門でもある。

（山口 安昭　元泉大津市文化フォーラムマネジャー）

街の灯りのシンボル・神戸ポートタワー



2023（令和 5）年 12 月 21 日の夜のことです。リニューアル工事中の神戸ポートタワー（神戸市中央区）に、灯りがついたとのニュース。瞬間、パッと胸に灯りが点きました。耐震補強工事のため 2021（令和 3）年 9 月から休業、2024（令和 6）年春に屋上に展望台を新設して再オープン。ライトアップ再開の映像をくるりとまわせば、半世紀近く前の港町神戸の風景がよみがえってきました。駅を降りて、まだシャッターが開いていない三宮地下街をくぐり、右手にフラワーロード、左手に花時計、市役所前を歩いて行くのはアバターではありません。貿易会社に勤めるオフィスガールのころの若き日の私です。現在は阪神・淡路大震災の記憶を語り継ぐ場所、光の回廊・ルミナリエなどが開催される東遊園地。ここでは昼休みにキャッチボールをしている私がいました。深夜友人たちと走ったフラワーロード。仕事関係の招待で、同僚たちと外国船の船上パーティーの華やかさに酔った夜。再現ドラマのように煌めくような「灯り」が蘇ってきます。

（寺田 操　詩人・コラムニスト）

奈良ホテル

日本クラシックホテル協会に、近畿で唯一の加盟ホテル。歴史と格調を絵に描いたような玄関で、快い緊張感が、身体をしゃんとさせてくれる。奈良にどんな高級ホテルが建っても、私にとっては、奈良ホテルが最高。大正生まれの母も、少女時代にここを訪れている。そんなファミリーヒストリーを胸に秘めて、コロナ禍の２０２０（令和 2）年、満開の桜が美しい頃、観光客ゼロの奈良公園を昔の教え子と歩き、奈良ホテルのダイニングルームでランチを楽しんだ。多くのイベントがキャンセルになってしまった悲しい時期、奈良ホテルは、ひとときのゴージャスタイムを提供してくれ、元気をいただいた。感謝！

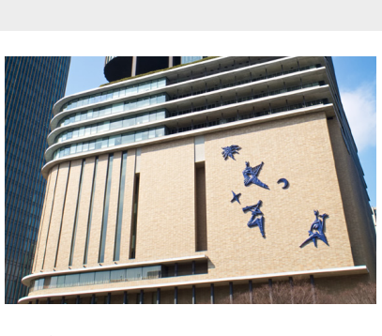
（堀江 珠喜　大阪府立大学名誉教授）

建築・建造物はほかに、京都駅ビル、大阪府立中之島図書館、通天閣、あべのハルカス、大阪府立近つ飛鳥博物館、ヨドコウ迎賓館（旧山邑邸）などをご紹介しています。

第４章　スポーツ施設・コンサートホール

関西には、2023（令和 5）年に 38 年ぶりの日本一で盛り上がりをみせた阪神タイガースの本拠地で高校野球のメッカでもある阪神甲子園球場やＪリーグチームのホームスタジアムをはじめとして、人々が元気になれるスポーツ施設やコンサートホールがたくさんあります。

フェスティバルホール



音楽好きなので、これまで何度、中之島のフェスティバルホールへ足を運んだことか。その中で一番強烈な思い出があるのは、忘れもしない 1971（昭和 46）年の９月、高校２年生のときに初来日したイギリスのロックバンド、レッドツェッペリンのコンサートです。３階最後部の隅っこの席で、友人と大音響かつ、耳がつんざくサウンドに暴露され、脳天が砕かれそうになりました。それまで聴きまくっていたビートルズが完全に吹き飛んでしまった！もちろん、とてつもなく活力を得ることができました。

（武部 好伸　エッセイスト・作家）

阪神甲子園球場

テレビでＮＨＫ以外に初めて民放（朝日６チャンネル）が開始され、タイガースの選手による野球教室が放映されたのを観て以来タイガースファンになった。中学３年生の夏、友人と弟と私の３人で甲子園へ高校野球観戦に行った。準々決勝は強豪や優勝候補のチームが出る４試合が見応えがあるのでよく行った。春夏連勝を目指す早稲田実業と地元神戸のチームの対戦で、ピッチャーで四番の王貞治が２年生だった。地元チームのアルプス席が満員だったので、早実応援団のアルプススタンドで炎天下の観戦。その夏も早実が優勝、王貞治は翌年巨人に入団。投打とも活躍した王は、今なら、大谷翔平みたいに投打二刀流でプロでも活躍できたかも知れない。一本足打法に代えて、世界に通用する選手になった。友人の弟はそれ以来巨人ファンになった。

高校野球で活躍した選手がタイガースに入団して活躍するのを応援する楽しみ。アメリカメジャーチームが来日して、日本選手代表チームやタイガースと対戦するのを見に行った。今、大谷翔平が所属するドジャースが甲子園に来た時、ドン・ニューカムというピッチャーがとびっきり大きいので、小柄な日本人選手を圧倒していた。メジャーリーグで日本人選手が対等に活躍する時代が来るとは思えなかった。

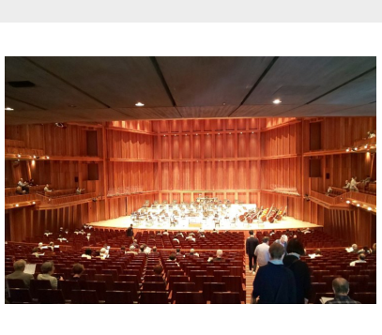
星野仙一監督のリーグ優勝から１８年目、吉田義男監督のチーム一丸となって日本一になってから３８年ぶりに、昨秋、タイガースは日本一に輝いた。甲子園は、一番元気をもらえる場所である。

（樋口 須賀子　宮本順三記念館豆玩舎 ZUNZO 館長）

明治安田Jリーグ

明治安田がＪリーグのパートナーになって今年で 10 周年を迎えました。関西には、Ｊ リーグ各チームの本拠地（京都サンガF.C. のサンガスタジアムｂｙＫＹＯＣＥＲＡ、ガンバ大阪のパナソニックスタジアム吹田、セレッソ大阪のヨドコウ桜スタジアム、ヴィッセル神戸のノエビアスタジアム神戸など）をはじめとして、数多くのサッカー場があります。これからも明治安田はＪリーグとともに、地域を元気にしていきます。

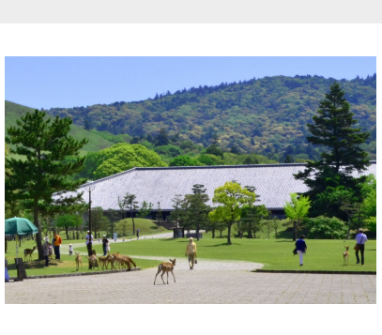
兵庫県立芸術文化センター



この施設ができてあまり年数がたっていない 2014（平成 26）年にジャズが好きで地元のアロージャズオーケストラと見砂和照と東京キューバンボーイズの競演を見に行った。今まで大小のホールでジャズを見聴きしたが、兵庫県立芸術文化センターご自慢の KOBELCO 大ホールでのフルバンドの演奏は音響効果も抜群で度肝を抜かれた。ホールの広さ、レイアウト、座席配置、音響、装置、装飾などいずれも素晴らしく贅沢な気分を味わった。これは私どもファンだけでなく演奏者も感じたに違いない。経験したことのない喜びで、演奏だけでなくこのホールから元気を頂いた。

（中川 哲男　日本動物園水族館協会会友、元天王寺動物園園長）

奈良公会堂内能楽堂



奈良は能楽発祥の地として、県内各地に能楽堂があります。地元の人々が集う祭りなどで、能が奉納されるのです。奈良公会堂は奈良公園内の東にあり、この中に能楽堂があります。室町時代の様式に習って造られていて、古風な構えとなっています。この能楽堂では、能を演じるほか、研究会・講演会の会場としても利用されています。国際会議などを開催すると、外国人には好評です。舞台の隅にある目付柱 (めつけばしら) は取り外しが可能で、舞台が演壇のようになるのです。

（上野 邦一　奈良女子大学名誉教授）

スポーツ施設・コンサートホールはほかに、ザ・シンフォニーホール、大阪城ホール、京セラドーム、東大阪市花園ラグビー場、グリーンスタジアム神戸などをご紹介しています。

第５章　テーマパーク・商店街

関西には、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン（ＵＳＪ）に代表されるテーマパークやミュージアムはもとより、古くから地元の人々に愛され、日常的に利用されている市場や商店街がたくさんあります。

祇園のお茶屋さん

お茶屋さんというと、遠い存在に感じていました。が、一度連れて行ってもらうと、さほど敷居が高いわけでもなく、時折夫婦で楽しませてもらっています。芸妓さんや舞妓さんたちと会話を楽しみます。ちょっと聞いてみたいことなど、何でも気軽に応えてくれます。何か食べたいものがあれば、近隣のお店から持ってきてくれます。何でも食べられるし、何でも飲めます。周辺のお店が皆さん支えあって、祇園のお茶屋さんが成り立っていることが、よくわかります。だから、皆さんご近所づきあいをとても大切にされています。祇園のお茶屋さんは、お客さんを案内すると、間違いなく喜ばれる空間なのです。

（古山 喜章　経営コンサルタント）

天六で夜討ち前の腹ごしらえ

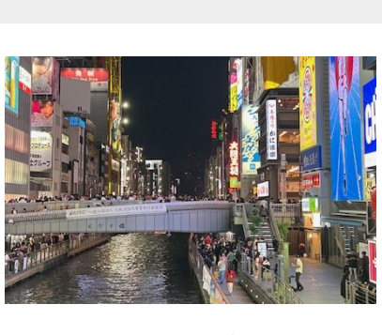
元気になれる場所、とは今の言い方ならパワースポット。若いころ、事件記者として大阪の街を駆け回っていた私の場合、それは天神橋筋商店街だった。日が暮れて、夜討ち取材に出かける前、気が合うライバル紙の記者と示し合わせていた天六（天神橋六丁目）の大衆寿司店で落ち合う。たわいもない話をしながら、安価でボリュームたっぷりの握り寿司で腹ごしらえ。互いの、怖いキャップ（取材チームの指揮者）には内緒で、情報を交換することも。日々の特ダネ競争で疲れた心身を癒やし、次の取材へのパワーを養うのに、大阪天満宮の門前町であり、庶民感覚あふれる天六界隈は恰好のスポットだった。

以来 40 数年。日本一長いアーケード街の天神橋筋商店街には、上方落語の定席「天満天神繁昌亭」や、「住まいのミュージアム 大阪くらしの今昔館」など新名所も誕生。コロナ禍にもめげず、多彩な店舗がひしめき、大阪きっての盛り場としてにぎわっている。

一方で、わが郷里を含めて地方都市の商店街は、1980 年代を境に「シャッター通り化」が進む。人口減少、地方経済衰退の象徴であり、行く末が気がかりだ。

（時岡 禎一郎　大阪府男女共同参画推進財団評議員）

道頓堀

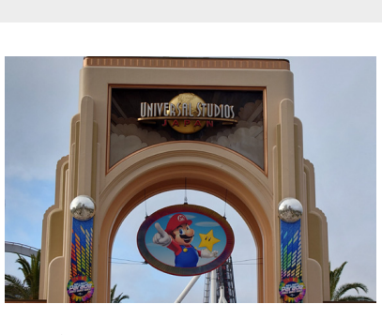


夏休み、孫兄弟がくるというので、希望を尋ねた。そのひとつに、「大阪のたこ焼きが食いたい」というのがあった。「それなら道頓堀やな」ということになり、総勢六名で出かけた。地下鉄「心斎橋」の駅を上がり、戎橋の上にやってくると、まずその人波に圧倒される。ともかくたこ焼き屋をと探すと、どの店にも数十人の行列ができている。せっかくだから、しばらく並んででも目当ての品を待とうかと迷っているうちに、炎天下、みんなはすでにげんなりしたようす。しかたなくあきらめて、心斎橋筋のアーケードに逃げ込んだ。

結局、道頓堀のたこ焼きは断念、帰路、家の近くのたこ焼きで我慢してもらったが、十分うまかった。そうそう、その行列に外国人らしき客の多さに目を見張る。道頓堀のたこ焼きって、そこまでして執着するものなの？

（藤田 真一　関西大学名誉教授）

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン



今や大阪の娯楽の顔、といってもよい存在だと思います。私も年に一度は訪問し、元気をもらっています。とにかく来場者が皆さん、楽しそうです。それだけでも、とてもハッピーになった気になります。アトラクションを楽しむのもいいですが、レストランでゆっくり食事やお酒を楽しみながら、数軒をはしごして一日を過ごす、という楽しみ方もあります。お店のスタッフもみなさん陽気に接してくれて、時間があっという間に過ぎてゆきます。

ご家族、友人同士、外国人観光客など、さまざまな人がとても楽しそうにしています。その様子を見ているだけで、特別な空間にきている感じがあります。映画にこだわらないアトラクションで、今後も楽しませてほしいアミューズメント施設なのです。

（古山 喜章　経営コンサルタント）

新世界

今から４５年ほど前、新世界界隈には映画館がたくさんありました。とにかくよく通い、浴びるほど映画を楽しませてもらいました。スクリーン数で思い出せば、２０はありました。土日ともなれば、３本立てを２軒はしごする、ということもありました。朝から晩まで映画です。時々、映画館から出させてもらって、立ち食いうどんを食べにいったりしていました。そんな自由な雰囲気でした。現在、映画館は２軒で４スクリーンです。それでも残っているだけ立派です。

映画館はほぼなくなりましたが、今でも新世界に時々行きたくなります。昔ながらの安い居酒屋を数軒はしごします。映画館のはしごから、飲み屋のはしごに変わりました。そう思うと、自分も大人になったな、と改めて感じます。（といっても、還暦間近なのですが…。）新世界は私にとって、今後も通い続けたい、心のふるさとのひとつなのです。

（古山 喜章　経営コンサルタント）

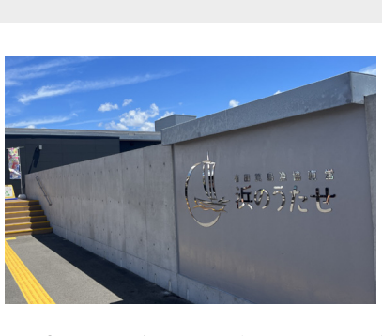
明石魚の棚商店街

魚の棚（うおのたな或いはうおんたなという）は、明石市本町にある商店街の呼び名で、鮮魚店が多く軒を連ね、練り製品や乾物を扱う店や明石焼き（玉子焼き）の店もある。長さは 350 メートルほどであるが、400 年の歴史があると聞いたことがある。明石海峡や播磨灘で獲り、明石漁港で水揚げされた新鮮な明石鯛や明石蛸等が有名で、活きの良さを売り物としている。

12 月から 1 月は大漁旗が立ち並び活気を呈する。筆者は、正月前に祝鯛（睨み鯛）等を購入するのに訪れていたが、人出の多さに閉口し、かなり前から師走には出向くことがなくなった。しかしながら、その時期以外にも訪れるたびに、活気がある商店街の雰囲気に元気をもらえるような気がする。

（藻川 芳彦　伊丹市昆虫館友の会副会長、ナチュラリスト）

浜のうたせ



日本屈指の漁獲量を誇るタチウオを中心に 200 種以上の魚を水揚げする和歌山県有田市の箕島漁港に、「新鮮市場浜のうたせ」が 2020（令和 2）年５月にオープンしました。箕島漁港で獲れた鮮魚を中心に、水産加工品、地元の新鮮野菜や果物、お土産物などの販売をしています。「浜のうたせ」とは、漁師さんにとって思い入れの深い、地元「辰ケ浜」と「うたせ船」を合わせて名付けられたそうです。近くにお越しの際には、是非ともお立寄りください。獲れたての鮮魚を使った BBQ も楽しむことができます。

（新海 大樹　和歌山文芸クラブ代表）

テーマパーク・商店街はほかに、錦市場、千林商店街、新梅田食道街、空堀商店街、ミナミのアメリカ村、駒川商店街、神戸元町商店街、生駒山上遊園地などをご紹介しています。

第６章　祭礼・イベント

かつて日本の中心地として栄えた関西には、伝統ある祭礼がたくさんあります。また、音楽フェスティバルやスポーツイベントも注目度が高く、関西の祭礼・イベントには、地元の人々だけでなく海外・全国から多くの人々が毎年来場します。

びわこ大花火大会

琵琶湖の夏の風物詩となっている「びわこ大花火大会」は、新型コロナウイルス感染症の拡大で、2020（令和 2）年から中止していました。昨年の2023（令和5）年8月8日、4年ぶりに開催されました。この2023（令和 5）年は、滋賀県はアメリカのミシガン州との姉妹提携 55 周年、中国の湖南省との友好提携 40 周年に当たっていたそうです。それをふくめた花火大会でした。

会場は浜大津の大津港と少し東に離れた膳所の湖岸でも、同時に花火は打ち上げられます。少し離れた湖岸からは、二つの会場の花火を同時に見上げることができます。開始時間は１９時３０分、ほぼ １ 時間、連続して花火が打ち上げられます。その数は１万発の花火が夜空を彩ります。３年間も中止していましたので、昨年は浜大津まで出かけ、実に多くの人たちと共に鑑賞しました。久しぶりに、花火のドーンという音を体感しつくした夜でした。この夜は、花火も多様なものが打ち上げられるようになったことも知り、また併せて夏の夜は花火に暫し見とれるのもいいものだ、と思いました。

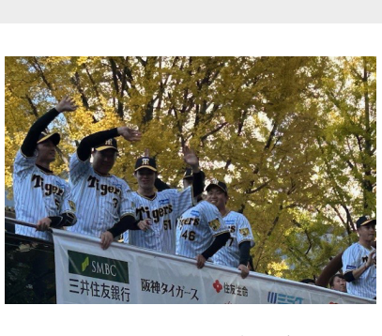
(小笠原 好彦　滋賀大学名誉教授)

祇園祭

京都三大祭と呼ばれるのが、祇園祭・葵祭（賀茂祭）・時代祭です。祭礼はむろん時代につれて変わるのですが、祭りには参加型と観覧型とがあります。葵祭・時代祭が観覧型、つまり観るものなのに対して、祇園祭は市民参加型で、その祭事・神事は前後一ヵ月近くに渡ります。最大のヤマ場は山鉾巡行ですが、人びとが賑わいを見せるのは前日夜の宵山です。巡行当日よりもはるかに多い人が集い、京都すべてが活気づきます。室町時代、続く戦乱で祭礼が中止されようとしたとき、京都の町衆たちが「神事これ無くとも、山鉾渡したし」といったことはよく知られていますが、古くから祭りは京都市民によって担われていたのです。その伝統が今も息づいていることを宵山は示していて、巡行もむろんいいですが、是非この宵山に京都の街を体感していただければ、「祭り」というものは人々がより集い、元気をたがいに交換するものであることがよく分かります。

（井上 満郎　京都市歴史資料館館長、京都産業大学名誉教授、京都市埋蔵文化財研究所長）

阪神・オリックス優勝記念パレード



2023（令和）年 11 月 23 日、御堂筋で阪神・オリックス優勝記念パレードをかぶりつきで見ました。ぼくは超・虎党です。大阪はオリックスが先だったので、見やすい「席」を取るため、オリックスのパレードを眺めてから、阪神のユニフォームならぬ、1985（昭和 60）年の日本一になったときに購入した阪神の法被を着て陣取りました。岡田監督、大山選手、西（勇）投手、小幡選手……。至近距離で拝顔でき、大興奮！　近本選手、サトテルらは反対側だったので、見られなかったのが残念！　次期監督の呼び声が高い今岡コーチと目が合った途端、なぜか涙がこぼれてしまいました。「元気印」の渦に包まれた御堂筋！　その光景は死ぬまで忘れられません。

（武部 好伸　エッセイスト・作家）

岸和田だんじり祭

毎年９月に開催される岸和田だんじり祭り。８月のお盆頃から、もう楽しみで楽しみでソワソワ。いつの頃からか、この祭りが大好きになりました。きっかけは、今から３０年以上前に番組を担当したこと。大迫力と勇壮な地車。そして曳き手の人数の多さ、大屋根の華麗な姿に圧巻でした。それから毎年、番組生中継に携わり、地元ローカルと全国中継の想い出は人生の宝物です。今は放送現場を離れましたが、それでも、毎年、熱い男の岸和田祭りに行って、最高のエネルギーに浸っています。（吉本 真樹　フリーアナウンサー）

天神祭

毎年 ７ 月２５日夜には、大川で天神祭の船渡御が斎行される。天神橋から遡行する「奉安船」「供奉船」の船団と、上流の飛翔橋から下航する「奉拝船」の船団の計１００艘が行き交い、上空には３０００発の奉納花火が煌めく。その壮観のパノラマを見物するために、川岸や橋上には１３０万人もの群衆が溢れる。

船渡御の最大の特徴は、祭礼を執行・奉仕する側と、それを見物する側との間に熱い交流の仕掛けがあること。それは「大阪締め」である。その本来の意味は、年に一度だけ氏地・氏子の平安・無事を見回られる神様を奉祝するための行為ではあるが、実質的には、遠来の見物客をもてなそうとの大阪町人の心遣いである。各船からの声掛けに見物客たちが応える。「打ちまーしょ、チョン・チョン、もぉ一つせ、チョン・チョン、祝（いぉ）うて三度、チョチョン・チョン」。掌が痛くなるほど、何度も何度も繰り返される。この喧騒の中に元気の源がある。

（高島 幸次　龍谷大学エクステンションセンター顧問、大阪天満宮文化研究所研究員）

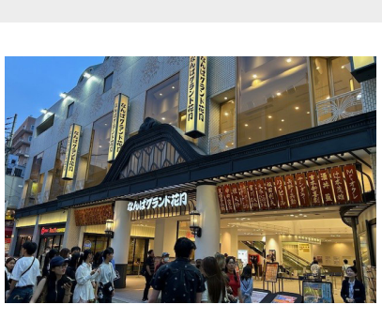
大相撲三月場所（春場所）

―ガチンコに目もくらむなり大相撲―　子供の頃から相撲が好きで、日曜日ごとに府立体育会館に出かけ、二階席で見物していました。それと一日は父が桟敷席をとってくれましたので、一場所に４回は見物していました。当時は支度部屋に入ることができ、そこにある土俵で友達と相撲を取ることもできました。

そんなある日、当時の高砂部屋の親方から「ええあんこやな。ちょっとおいで、おいで」と呼ばれました。当時小学校５年生で１６０㎝、６０kgほどの体でしたので「ええあんこ」だったのでしょう。ここでつかまると「フンドシカツギ」をやらされると思い、あわてて逃げたのを覚えています。それにしても、体重１５０kgほどある力士同士の立合いのガチンコには、ただただ目をみはるばかりです。

（西村 隆治　沢の鶴株式会社代表取締役会長）

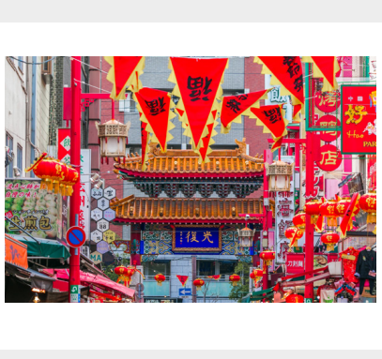
吉本新喜劇



今やテレビのどこのチャンネルを回しても吉本興業の芸人が絡んでいないものは皆無と言ってもよい。ある時友人と話をしていて大阪の喜劇や漫才等の話になった。藤山寛美や渋谷天外などの松竹新喜劇やダイマル・ラケット、いとしこいし、横山やすし･西川きよしの漫才はメリハリがあって安心して見ておれたが、最近の吉本新喜劇や若手（と言っても 40 代）の漫才やコントは見ていても落ちがパターン化して面白くない。それは自分の嗜好と今の笑いの質が変化しているからなのかなと問うたところ、友人は「それはやっぱり本物を見てへんからや。難波の吉本のＮＧＫへ行って本物を見てみい、絶対に印象が変わるで、元気出るしお客も大声出して笑ろうてるがな、あそこへ行ったら元気出るでぇ～」と言っていた。本当かな～？　今度機会があったら元気をもらいに行ってみようと思う。

（中川 哲男　日本動物園水族館協会会友、元天王寺動物園園長）

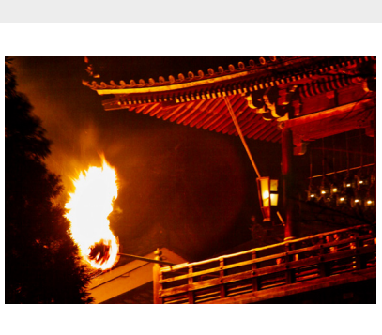
南京町春節祭



元町と栄町通１、２丁目一帯の中国人街を南京町と呼んでいる。港のメリケンパークに近い。実施日は毎年変わる旧正月なのでネットでご確認を。旧正月を中国人たちがお祝いするもので、獅子舞や歌、イベント等で祝っている。料理も旧正月用メニューとなっている店もある。くじ引きはもれなく当ると評判。元町駅（ＪＲ・阪神）から近く、是非どうぞ。

（かどもと みのる　神戸港を考える会代表）

東大寺二月堂で行なわれる修二会（しゅにえ）



毎年 ３ 月 １ 日～15 日に行なわれる伝統行事で、毎晩 ７ 時から行なわれる「お松明」は今や観光客が大挙して人数制限が起こるほどの人気。火に対する信仰を実感でき、精神的なリフレッシュや元気ももらえるかと思います。また、関西ではお水取りが終わると春が来た感じがします。外で行なわれてるお松明だけでなく、二月堂の中で毎晩深夜まで行なわれてる修二会の儀式は、入るチャンスはかなり限られているが、1000 年以上続く伝統の重みを感じる厳粛な世界が体験できる。個人的には ３ 月 12 日の深夜 １ 時前に二月堂の外の祠で行なわれるお水取りの儀式が非常に好き。琵琶など和楽器と合わせて行なわれる儀式は幻想的。

（大塚 淳史　フリーランスライター）

祭礼・イベントはほかに、建部大社の船幸祭、東寺の弘法市、都をどり、サントリー１万人の第九、高槻ジャズストリート、神戸ルミナリエ、廣瀬大社の砂かけ祭、紀州九度山真田まつりなどをご紹介しています。